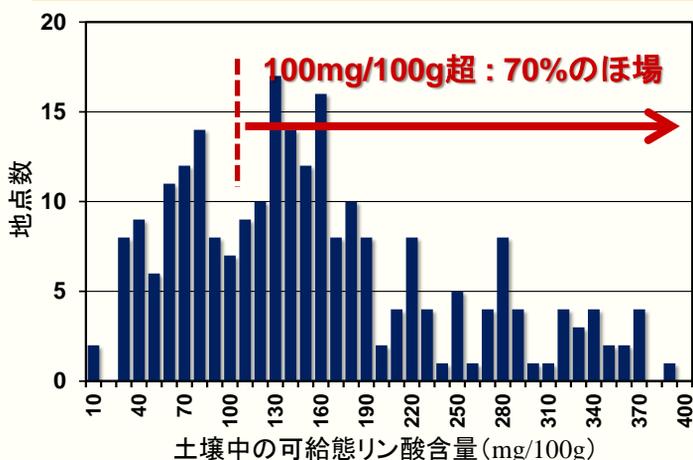


葉菜類(コマツナ・ホウレンソウ)におけるリン酸減肥指標を設定しました

肥料成分のうちリン酸は輸入に100%依存し、かつ高価な成分です。一方、リン酸は農耕地土壌において蓄積が進んでおり、特に県内の葉菜類産地では過剰な蓄積が見られています。

そこで、土壌中に蓄積したリン酸を有効に活用し、肥料費の削減を実現するため、葉菜類(コマツナ・ホウレンソウ)を対象に、土壌中の可給態リン酸の量に応じたリン酸減肥あるいはリン酸無施肥栽培が1年間(コマツナは年間8回、ホウレンソウは年間6回栽培と想定)継続可能なリン酸減肥指標を設定しました。



可給態リン酸が高い場合には、リン酸を減肥しても収量に影響がない

飛騨地域のホウレンソウ雨よけハウスの土壌中可給態リン酸含量の実態

(H24、JAひだ、飛騨農林事務所農業普及課)

葉菜類(コマツナ・ホウレンソウ)におけるリン酸減肥指標

可給態リン酸 (mg/100g)	50 未満	50~100	100 超
リン酸施肥量	施肥基準どおり	リン酸吸収量相当を補給	無施肥

*: リン酸吸収量相当を補給する場合のリン酸施肥量(1作あたり)は、コマツナは3kg/10a程度、ホウレンソウは4kg/10a程度とする

(研究成果)

- ・ 栽培開始前に土壌診断を行い、可給態リン酸の現状を把握した上で、本指標に基づいて1年間のリン酸施肥量を決定できます。
- ・ 本指標を活用したリン酸減肥栽培に取り組むことで、土壌中に蓄積したリン酸を有効に活用でき、肥料費の削減や資源循環型の施肥につながります。
- ・ 家畜ふん堆肥に含まれるリン酸も肥料として活用できるため、家畜ふん堆肥を施用する場合には、堆肥に含まれるリン酸量を施肥から減らすことができます。